

第28回麻布環境科学研究会 一般演題3

アルコール依存症者における脳波検査結果の分析

小野沢裕也^{1,2}, 吉原 英児¹, 岩橋 和彦^{1,3}¹麻布大学大学院環境保健学研究科 環境保健科学専攻保健生命系 神経生理学分野,²北里大学病院臨床検査部, ³麻布大学健康管理センター

1. はじめに

アルコール依存症者における脳波検査結果は一般的に異常所見を認めることが少ないとされるが、我々の分析ではアルコール依存症者の約60%の患者において何らかの異常所見が確認された。アルコール依存症者における臨床症状別に脳波検査結果の分析を行った。

2. 対象

北里大学病院で1978年から2005年までに検査を行った延べ約13万人のなかから抽出したアルコール依存症者73人について、主訴とされる臨床症状別に異常脳波検査所見を分析した。

3. 結果及び考察

主訴とされる臨床症状は、痙攣、意識障害、記憶力障害、幻覚、情緒障害の順に多かった。脳波所見は痙攣群患者で正常6例、異常14例の計20例。意識障害群患者は正常3例、異常14例の計17例。情緒障害群患者は正常7例、異常8例の計15例。記憶力障害群患者は正常4例、異常7例の計11例。幻覚群患者は正常6例、異常4例の計10例であった。幻覚群を除いた他の症状群では、異常患者数が正常患者数を上回った。とくに痙攣群患者、意識障害群患者で異常率が高いのが特徴的であった。

異常脳波所見は痙攣群では、8Hz α Basic pattern 4例, β Basic pattern 4例, θ Basic pattern 3例, hyper ventilation activationによるBuild up 1例, θ Burst 1例, Basic laterality 1例であった。意識障害群では、 θ Basic pattern 5例, 8Hz α Basic pattern 2例, 開眼による α -

attenuation不良2例, β Basic pattern 1例, Basic laterality 1例, δ Basic pattern 1例, θ Burst 1例, Hyper ventilation activation時のBuild up 1例。情緒障害群では、 β Basic pattern 3例, θ Basic pattern 2例, 8Hz α Basic pattern 1例, Hyper ventilation activation時のBuild up 1例。記憶力障害群では、 θ Basic pattern 3例, β Basic pattern 2例, 8Hz α Basic pattern 1例, 開眼による α -attenuation不良1例。幻覚群では、 β Basic pattern 2例, θ Basic pattern 1例, 開眼による α -attenuation不良1例であった。

一般的にはアルコール依存症者における脳波検査では異常所見は認めることは少なく、あっても軽微なものであるとされているが、今回の分析では73例中47例の64%の検査結果に異常所見が認められた。異常所見は基礎律動が8Hz α wave以下まで低下し θ waveを主体とする所見が多く見られ、中には δ waveを主体とする検査結果もみられた。これは、今回の調査ではアルコール依存症患者の中でも特に神経学的症状や精神症状が悪化した症例や、変化が見られた症例に検査を施行していることが一般的なデータより異常率が高くなった要因と考えられる。この64%という異常率の高さや、比較的症状の重い痙攣群患者や意識障害群患者で特に異常率が高くなることから、アルコール依存症者の脳波検査の有用性が示されており、痙攣群患者の脳波所見にてんかん性突発性異常波を認めなかった点も、酒性てんかん等を否定する意味で重要である。